

学校法人 大阪学芸 寄附行為

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、学校法人大阪学芸と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、事務所を大阪府大阪市住吉区長居1丁目4番15号に置く。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行うことを目的とする。

(設置する学校)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる学校を設置する。

(1) 大阪学芸高等学校 全日制課程 普通科

全日制課程 国際科

(2) 大阪学芸中等教育学校

(3) 大阪学芸高等学校附属中学校

第3章 役員及び理事会

(役 員)

第5条 この法人に、次の役員を置く。

(1) 理事 7人から10人

(2) 監事 2人から3人

2 理事のうち1人を理事長とし、理事総数の過半数の議決により選任する。理事長の職を解任するときも、同様とする。

3 理事のうちから1人を専務理事とすることができる。専務理事は、理事総数の過半数の議決により選任する。専務理事の職を解任するときも、同様とする。

4 理事のうち3人以内を常務理事とし、理事総数の過半数の議決により選任する。常務理事の職を解任するときも、同様とする。

(理事の選任)

第6条 理事は、前条第1項第1号に定める人数の範囲内において、次の各号に掲げる者とする。

(1) 高等学校校長及び中等教育学校校長のうちから理事会において
選任した者 1人から2人

(2) 評議員のうちから評議員会において選任した者
2人から4人

(3) 前各号に規定する者のほか、学識経験者、功労者、その他のう
ちから理事会において選任した者
3人から5人

2 前項第1号、第2号及び第3号の理事のうち教職員から選任され
た理事は、校長、評議員、又は教職員の職を退いたときは理事の職を
失うものとする。

(監事の選任)

第7条 監事は、この法人の理事、教職員、評議員又は役員の配偶者若しくは
三親等以内の親族以外の者であって理事会において選出した候補者の
うちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任する。

2 前項の選任に当たっては、監事の独立性を確保し、かつ、利益相反
を適切に防止することができる者を選任するものとする。

(役員任期)

第8条 役員(第6条第1項第1号に掲げる理事を除く。以下この条において
同じ。)の任期は、3年とする。ただし、補欠の役員の任期は、前任者
の残任期間とすることができる。

2 役員は、再任されることができる。

3 役員は、任期満了の後でも、後任の役員が選任されるまでは、なお、
その職務(理事長、専務理事、又は常務理事にあつては、その
職務を含む。)を行う。

(役員定年)

第9条 役員定年は、理事会において定めることができる。

(役員補充)

第10条 理事又は監事のうち、その定数の5分の1をこえるものが欠けたと
きは、一月以内に補充しなければならない。

(役員解任及び退任)

第11条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、理事総数の4分の
3以上の議決により、これを解任することができる。

(1) 法令の規定又はこの寄附行為に著しく違反したとき。

(2) 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき。

(3) 職務上の義務に著しく違反したとき。

(4) 役員たるにふさわしくない重大な非行があつたとき。

2 役員は次の事由によって退任する。

(1) 任期の満了。

(2) 定年。

(3) 辞任。

(4) 死亡。

(5) 私立学校法第38条第8項第1号又は第2号に掲げる事由に該当するに至ったとき。

(理事長の職務)

第12条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

(専務理事の職務)

第13条 専務理事は、理事長を補佐し、この法人の業務を統括する。

(常務理事の職務)

第14条 常務理事は、理事長を補佐し、この法人の業務を分掌する。

(理事長職務の代理等)

第15条 理事長に事故があるとき、又は理事長が欠けたときは、あらかじめ理事会において指名された理事が、その職務を代理し、又はその職務を行う。

(監事の職務)

第16条 監事は次の各号に掲げる職務を行う。

(1) この法人の業務を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) この法人の理事の業務執行の状況を監査すること。

(4) この法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了二月以内に理事会及び評議員会に提出すること。

(5) 第1号、第2号及び第3号の規定による監査の結果、この法人の業務若しくは財産又は理事の業務執行に関して不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを大阪府知事に報告し、又は理事会及び評議員会に報告すること。

(6) 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して理事会及び評議員会の招集を請求すること。

(7) この法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について理事会に出席して意見を述べること。

2 前項第6号の請求があった日から5日以内に、その請求があった日から2週間以内の日を理事会又は評議員会の日とする理事会又は

評議員会の招集の通知が発せられない場合には、その請求をした監事は、理事会又は評議員会を招集することができる。

- 3 監事は、理事がこの法人の目的の範囲外の行為その他法令若しくは寄附行為に違反する行為をし、又はこれらの行為をする恐れがある場合において、当該行為によってこの法人に著しい損害が生ずるおそれがあるときは、当該理事に対し、当該行為をやめることを請求することができる。

(理事会)

第17条 この法人に、理事をもって組織する理事会を置く。

- 2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。
- 3 理事会は、理事長が招集する。
- 4 理事長は、理事総数の3分の2以上の理事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から7日以内に、これを招集しなければならない。
- 5 理事会を招集するには、各理事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付すべき事項を書面により通知しなければならない。
- 6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合にはこの限りではない。
- 7 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。
- 8 理事長が第4項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。
- 9 前条第2項及び前項の規定に基づき理事会を招集した場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。
- 10 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の3分の2以上の理事が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。ただし、第13項の規定による除斥のため3分の2に達しないときは、この限りではない。
- 11 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 12 理事会の議事は、法令及び寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席理事の過半数で決する。但し、可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 13 理事会の議事について、特別の利害関係を有する理事は、議決に加わることができない。

(常務会)

第18条 この法人に常務会を置き、学校法人の業務のうち、理事会の委任に

基づく事項について決定し、業務を執行する。

(議事録)

- 第19条 議長は、理事会の開催の場所及び日時並びに議事事項及びその他の事項について、議事録を作成しなければならない。
- 2 議事録には、出席した理事全員が署名押印し、常にこれを事務所に備え置かなければならない。
 - 3 利益相反取引に関する承認の決議については、理事それぞれの意思を議事録に記載しなければならない。

第4章 評議員会及び評議員

(評議員会)

- 第20条 この法人に、評議員会を置く。
- 2 評議員会は、15人から28人の評議員をもって組織する。
 - 3 評議員会は、理事長が招集する。
 - 4 理事長は、評議員総数の3分の1以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に、これを招集しなければならない。
 - 5 評議員会を招集するには、各評議員に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面により通知しなければならない。
 - 6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。
 - 7 評議員会に議長を置き、議長は、評議員のうちから評議員会において選任する。
 - 8 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その議事を開き、議決することができない。ただし、第12項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りではない。
 - 9 前項の場合において、評議員会に付議される事項につき書面をもってあらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
 - 10 評議員会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
 - 11 議長は、評議員として議決に加わることができない。
 - 12 評議員会の議事について、特別の利害関係を有する評議員は、議決に加わることができない。

(議事録)

第21条 第19条各項の規定は、評議員会の議事録について準用する。この場合において、同条第2項中「出席した理事全員」とあるのは、「議長及び出席した評議員のうちから互選された評議員2人以上」と読み替えるものとする。

(議決事項)

第22条 次の各号に掲げる事項については、評議員会の議決を要する。

- (1) 予算、借入金(当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。)及び不動産の買受けに関する事項
- (2) 基本財産の処分並びに運用財産中の重要な不動産及び積立金の処分に関する事
- (3) 予算外の重要な義務の負担又は権利の放棄
- (4) 寄附行為の変更
- (5) 合併
- (6) 目的たる事業の成功の不能による解散

(諮問事項)

第23条 次の各号に掲げる事項については、理事長において、あらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。

- (1) 事業計画
- (2) 寄附金品の募集に関する事項
- (3) 剰余金の処分に関する事項
- (4) 寄附行為の施行規則に関する事項
- (5) 役員に対する報酬等(報酬、賞与その他の職務遂行の対価として受ける財産上の利益及び退職手当をいう。以下同じ。)の支給の基準
- (6) その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

(評議員会の意見具申等)

第24条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産及び収支の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。

(評議員の選任)

第25条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) この法人の教職員のうちから理事会において選任した者
5人から9人

(2) この法人の設置する学校を卒業した者で年齢25年以上の者のうちから理事会において選任した者

6人から10人

(3) 前各号に規定する者のほか、学識経験者、功労者、その他のうちから理事会において選任した者

4人から9人

2 前項第1号に規定する評議員は、教職員の地位を退いたときは、評議員の職を失うものとする。

(任期)

第26条 評議員の任期は、3年とする。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とすることができる。

2 評議員は、再任されることができる。

3 評議員は、その任期満了の後でも後任者が選任されるまで、なおその職務を行う。

(評議員の解任及び退任)

第27条 評議員が次の各号の一に該当するに至ったときは、評議員総数の3分の2以上の議決により、これを解任することができる。

(1) 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき。

(2) 評議員たるにふさわしくない重大な非行があったとき。

2 評議員は次の事由によって退任する。

(1) 任期の満了。

(2) 辞任。

(3) 死亡。

第5章 資産及び会計

(資産)

第28条 この法人の資産は、次のとおりとする。

(1) 財産目録記載の財産

(2) 授業料、入学金及び検定料収入

(3) 資産から生ずる果実

(4) 寄附金品

(5) その他の収入

(資産の区分)

第29条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、及び運用財産とする。

2 基本財産は、この法人の設置する学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金とし、財産目録中基本財産の部に記載する財産

及び将来基本財産に編入された財産とする。

3 運用財産は、この法人の設置する学校の経営に必要な財産とし、財産目録中運用財産の部に記載する財産及び将来運用財産に編入された財産とする。

4 寄附金品については、寄附者の指定がある場合には、その指定に従って基本財産又は運用財産に編入する。

(基本財産の処分の制限)

第30条 基本財産は、これを処分してはならない。ただし、この法人の事業の遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会において理事総数の3分の2以上の議決を得て、その一部に限り処分することができる。

(積立金の保管)

第31条 基本財産及び運用財産中の積立金は、確実な有価証券を購入し、又は確実な信託銀行に信託し、又は確実な銀行に定期預金とし、若しくは定額郵便貯金として理事長が保管する。

(経費の支弁)

第32条 この法人の設置する学校の経営に要する費用は、基本財産並びに運用財産中の不動産及び積立金から生ずる果実、授業料収入、入学金収入、検定料収入その他の運用財産をもって支弁する。

(会計)

第33条 この法人の会計は、学校法人会計基準により行う。

(事業計画)

第34条 この法人の事業計画は、毎会計年度開始前に、理事長が編成し、あらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。

(予算)

第35条 この法人の予算は、毎会計年度開始前に、理事長が編成し、あらかじめ評議員会の意見を聞いて、理事会において理事総数の3分の2以上の議決を得なければならぬ。これに重要な変更を加えようとするときも、同様とする。

(予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄)

第36条 予算をもって定めるものを除くほか、新たに義務を負担し、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会において理事総数の3分の2以上の議決がなければならぬ。借入金(当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。)についても、同様とする。

(決算及び実績の報告)

第37条 この法人の決算は、毎会計年度終了後二月以内に作成し、監事の意見を求めるものとする。

2 理事長は、毎会計年度終了後二月以内に、決算及び事業の実績を評議員会に報告し、その意見を求めなければならない。

3 毎会計年度において決算に剰余金が生じたとき、又は予算外に収入があったときは、その一部又は全部を基本財産、若しくは運用財産中の積立金に繰り入れ、又は次会計年度に繰り越すものとする。

(財産目録等の備付け及び閲覧)

第 38 条 この法人は、毎会計年度終了後二月以内に財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び役員等名簿（理事、監事及び評議員の氏名及び住所を記載した名簿をいう。）を作成しなければならない。

2 この法人は、前項の書類、監査報告書、役員に対する報酬等の支給の基準（以下「財産目録等」という。）及び寄附行為を各事務所に備えて置き、請求があった場合（財産目録等（役員等名簿を除く。）にあっては、この法人の設置する私立学校に在学する者その他の利害関係人から請求があった場合に限る。）には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。

3 前項の規定にかかわらず、この法人は、役員等名簿について同項の請求があった場合には、役員等名簿に記載された事項中、個人の住所に係る記載の部分を除いて、同項の閲覧をさせることができる。

(役員報酬)

第 39 条 役員に対して、別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

(資産総額の変更登記)

第 40 条 この法人の資産総額の変更は、毎会計年度末の現在により、会計年度終了後 3 月以内に登記しなければならない。

(会計年度)

第 41 条 この法人の会計年度は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わるものとする。

第 6 章 解散及び合併

(解 散)

第 42 条 この法人は、次の各号に掲げる事由によって解散する。

(1) 理事会における理事総数の 3 分の 2 以上の議決及び評議員会の議決

(2) この法人の目的たる事業の成功の不能となった場合で、理事会における出席した理事の 3 分の 2 以上の議決

- (3) 合併
- (4) 破産
- (5) 大阪府知事の解散命令

2 前項第1号に掲げる事由による解散にあつては、大阪府知事の認可を、同項第2号に掲げる事由による解散にあつては、大阪府知事の認定を受けなければならない。

(残余財産の帰属者)

第43条 この法人が解散した場合（合併又は破産によって解散した場合を除く。）における残余財産は、解散のときにおける理事会において理事総数の3分の2以上の議決により選定した学校法人又は教育の事業を行う公益社団法人若しくは公益財団法人に帰属する。

(合併)

第44条 この法人が合併しようとするときは、理事会において理事総数の3分の2以上の議決を得て大阪府知事の認可を受けなければならない。

第7章 寄附行為の変更

(寄附行為の変更)

第45条 この寄附行為を変更しようとするときは、理事会において理事総数の3分の2以上の議決及び評議員会の議決を得て、大阪府知事の認可を受けなければならない。

2 私立学校法施行規則に定める届出事項については、前項の規定にかかわらず、理事会において出席した理事の3分の2以上の議決を得て、大阪府知事に届け出なければならない。

第8章 補 則

(書類及び帳簿の備付)

第46条 この法人は、第38条第2項の書類のほか、次の各号に掲げる書類及び帳簿を、常に各事務所に備えて置かななければならない。

- (1) 役員及び評議員の履歴書
- (2) 収入及び支出に関する帳簿及び証ひょう書類
- (3) その他必要な書類及び帳簿

(公告の方法)

第47条 この法人の公告は、学校法人大阪学芸の掲示場に掲示して行う。

(施行細則)

第48条 この寄附行為の施行についての細則その他この法人及びこの法人の設置する学校の管理及び運営に関し必要な事項は、理事会で定める。

附 則

- 1 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

理 事	遠 藤 小 てる
理 事	鈴 木 慎 一 郎
理 事	遠 藤 秀 雄
理 事	藤 岡 泰 蔵
理 事	田 中 祐 之
監 事	佐 々 木 源 一
監 事	直 暹

- 2 この寄附行為は昭和26年 2月21日より施行する。

この寄附行為は昭和26年10月30日より改訂施行する。

この寄附行為は昭和46年12月15日より改訂施行する。

この寄附行為は昭和49年 6月17日より改訂施行する。

この寄附行為は昭和58年10月 5日より改訂施行する。

この寄附行為は平成 4年 2月 3日より改訂施行する。

この寄附行為は平成 6年 3月31日より改訂施行する。

この寄附行為は平成 7年 4月 4日より改訂施行する。

この寄附行為は平成 8年 3月25日より改訂施行する。

この寄附行為は平成13年 1月 1日より改訂施行する。

この寄附行為は平成15年 3月31日より改訂施行する。

この寄附行為は平成17年 4月 1日より改訂施行する。

この寄附行為は平成19年 4月 9日より改訂施行する。

この寄附行為は平成28年 4月 1日より改訂施行する。

この寄附行為は平成29年 5月22日より改訂施行する。

この寄附行為は平成31年 4月 1日より改訂施行する。

この寄附行為は令和 2年 4月 1日より改訂施行する。